

西海ブロック推進会議漁業資源部会・海洋環境部会合同会議報告書

会議責任者	西海区水産研究所長
-------	-----------

1 開催日時及び場所 日時 平成18年11月8日(水) 09:30~12:30  
場所 西海区水産研究所 大会議室

2 出席者所属機関及び人数 9機関 30名

3 結果の概要

議 題	結果の概要
1. 開 会	西海区水産研究所東シナ海漁業資源部長が開会を宣言。
2. 挨 拶	同部長から最近の情勢および部会開催の趣旨について説明。
3. 座長の選出	東シナ海海洋環境部長を座長に選出。
4. 協議事項	
1) 研究開発の実施 状況に関すること	各県および西海区水産研究所の研究課題を一覧表として提示するとともに、重点課題についてそれぞれ説明を行い意見を交換した。
2) 研究開発の成果 に関すること	漁業資源分野の成果が1件、海洋環境分野の成果が2件提出され、議論を行った。その結果下記の通りとなった。 ア) グミ(有害生物)の高塩分処理による駆除技術開発に成功(福岡県水産海洋技術センター)は研究成果情報の候補として西海ブロック推進会議へ上げることとした。 イ) 東シナ海・九州西岸域に分布するマルアジの年齢・成長・成熟特性(西海区水産研究所)は微修正を加え研究成果情報の候補として西海ブロック推進会議へ上げることとした。 ウ) 東シナ海北部大陸棚域における夏季の表層塩分と栄養塩濃度の長期変動(西海区水産研究所)については修正を加え、出席者に再度諮った上で研究成果情報の候補として西海ブロック推進会議へ上げるかを定めることとした。
3) 研究開発のニーズと具体的な取り組みに関すること	今年度における研究ニーズについては、4件提出され協議を行った。 これらのニーズを性格、解決の出口の可能性、それぞれの

観点から分類・整理した結果、①行政との協議が不可欠なため、対応方法を関係県及び西海区水産研究所で検討するもの1件（ア）、②提案県が中心となり情報収集を行い課題を整理するもの1件（イ）、③西海区水産研究所が中心となり関係県と連携を取りながら調査・研究を行うもの1件（ウ）、④西海区水産研究所が提案県と連携して既存の研究成果や会議を活用して情報収集を行うもの1件（エ）となった。

ア) 資源回復計画策定に伴うモニタリング調査の充実（山口県水産研究センター）

イ) ケンサキイカの資源生態等に関する研究（佐賀県玄海水産振興センター）

ウ) 有明海のエチゼンクラゲ動態（佐賀県有明水産振興センター）

エ) モジャコの来遊量予測に関する研究の強化について（鹿児島県水産技術開発センター）

また、日本海ブロックに提案された島根県、鳥取県からの底魚資源にかかわる研究ニーズについて東シナ海漁業資源部長から紹介があった。

16～17年度に提案されたニーズに関しては今年度で終了とした。

4) その他必要と認められる事項に関すること

・部会の再編について西海区水産研究所より説明があり、原案どおり西海ブロック推進会議へ上げることを合意した。

・平成17年度ニーズへの対応として実施した沿岸海域の最適水質環境に関する実態把握アンケートについての取りまとめが報告され、問題点を共有化するとともに今後の対応について協議を行った。その結果、同様な問題を抱える瀬戸内海区水産研究所の取り組みについて情報を入手し、ブロック内へ情報提供を行うこととした。

・海洋観測のあり方意見交換会で議論されていた我が国周辺水域における水産分野の定期的海洋観測のあり方についての中間取りまとめが紹介された。地域水産研究振興協議会漁海況モニタリングに関する作業部会の場で水産庁、水研センター、場長会が漁海況モニタリングについて議論をすることになっており、中間取りまとめを参考に、担当県を通して積極的に発言して欲しい旨要請があった。

5. その他

特になし。